認定／特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN　Newsletter　2021.12.31 発行

IV-NEWS

Vol. 43

冨永幸子代表　外務大臣表彰受賞

日本大使とラオスカウンターパートの代表と

JICA理事長賞受賞

国際協力機構（JICA）では、毎年、開発途上地域の経済・社会の発展や人々の福祉・教育向上などに寄与するとともに、日本の国際協力の評価を高めるなど、他の模範となるような著しい功績を収めた団体、あるいは専門家などの個人の功績を称え、表彰しています。

IV-JAPAN は、2003年から JICA と協働して、ラオスに於いて実践重視の職業訓練により人材育成、貧困削減に貢献し、全国の職業訓練校の教員の質の向上に寄与したことから、第 17 回 JICA 理事長賞受賞式に斎藤加代理事と安田昌美理事が出席し受賞しました。

ラオスの自立を支援

大宮のNGO 冨永さん外務大臣表彰

令和3年８月31日埼玉新聞掲載

— 目次 —

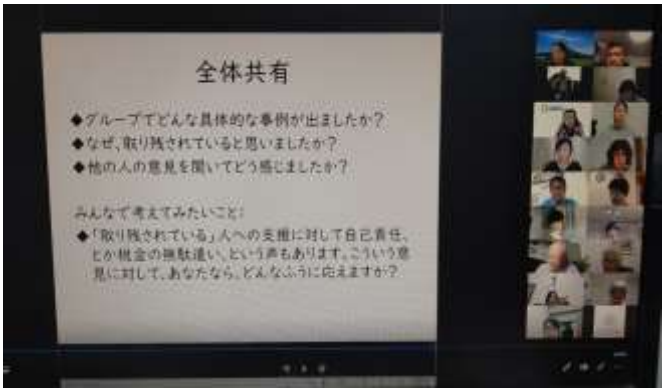
- 国内活動部会報告「IV-JAPAN と SDGsを考えよう」･･･2
- パルシステム埼玉平和基金･････････････････3
- Panasonic NPO/NGO サポートファンド（組織診断）･･3
- N 連ホスピタリティ･介護職業訓練･･････････4
- JICA 木工報告／HP を拝見して･････････････5
- 幸子だより　－ラオスに生かされて－　･･････6, 7
- 各種お知らせ　･･････････････････････8

国内活動事業部企画　第1弾

IV-JAPAN と SDGs を考えよう

現在、多くの人が興味・関心を持っている SDGs―。
当会の事業も SDGs に深く関わっています。
IV-JAPAN の SDGs活動を多くの人に知ってもらうために、2日間オンラインでベントを開催しました。

第1回 「身近にある SDGs の心」～持続可能な社会に向けて、私たちができること～ と題して、開発教育協会顧問・上條直美さんからご講演いただき、SDGsと自分たちの生活との関わりを考えるセッションを行いました。SDGs のモットーは「誰も取り残さない」ですが、身近で「取り残されている人」はいないかというグループワークで、自分と SDGsを見直す機会となりました。〔参加者は 25 名〕



第2回 「IV-JAPAN と SDGs」と銘打って、実際に職業訓練の現場をバーチャルで訪問。圓谷浩之プロジェクト・マネージャーからホスピタリティ・介護職業訓練の概要と施設の説明があり、実際にベッドメイキングの指導場面を参観。また、訓練生が寮で昼食を食べるところをご紹介いただきました。フィッシュスープ、野菜、ご飯を訓練生が輪になって食べている様子は、心が和みました。
職業訓練を希望した動機や今後についてのインタビューでは、当然ながら、みなホテルで働くことを目指しているそうで、早く通常の状態で訓練ができることを願わずにはいられませんでした。〔参加者30名〕

第一弾　国内活動事業　イベントを終えて・・・・・・・

国内事業第 1 弾は、参加者はそれほど多くありませんでしたが、IV-JAPAN の存在自体を初めて知った人もいたり、小・中学生が参加したり、SDGs について改めて考えたり、と今後の活動への小さな種を蒔くことはできたのではないかと思います。母親と一緒に参加した 9 歳の女子児童は、チャットで質問をしていましたが、ラオスの寮の生活にとても興味をもったそうです。ラオスとのオンラインで、現地の状況が手に取るように分かりよかったという感想もいただいています。
ご協力いただいた方々に心からお礼を申し上げます。これから参加者へのアンケート調査も行い、反省点を踏まえて、さらに充実した国内事業が展開できるように担当一同で考えてまいります。

理事　国内活動事業部会長　利根川　恵子

生活協同組合パルシステム埼玉平和募金受領

12 月 3 日オンラインでパルシステム埼玉平和募金授与式が開催されました。
この募金はパルシステム埼玉（本部さいたま市）の生協組合員の皆さまが、世界の貧困解決に立ち向かう平和活動に賛同して募金を毎年実施しているもので、今年は総額 286 万円余が集まり、NGO の 5 団体に配分されました。IV-JAPAN ではホスピタリティ／介護職業訓練生（全寮制）に不足している食料費に使わせて頂きます。組合員の皆さまに深く感謝申し上げます。

IV-JAPAN：中央上

Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs

NGO 組織基盤強化助成事業（組織診断コース）採択決定

当会は 1988 年に設立されて以来、教育を受けられなかったラオスの貧しい青年・女性 3500 名以上が、職業訓練によって技術を習得し、自営起業や就職による貧困削減を進めてきました。後発開発途上国のラオスでは依然として人材育成、貧困削減のニーズは大きく、このニーズに応えラオスの SDGs達成のために、当会が事業を持続させていくには組織基盤の安定を必須としています。

この問題意識から、当会は組織全般を検討し、2020 年に第 2 次「5 か年中期基本計画」を作成し、その中で重要な組織課題を「財政基盤強化」などとしました。当会の 2018～2020 年度収入平均は自己資金 18.8%、外部資金 81.3%です。外部資金は事業実施には必要ですが、その都度申請で採択可否により事業継続が確定しないこと、事務局の人材確保・育成や支援者サービスの充実に使用できないことから、組織基盤の安定には繋がらない面があります。

Panasonic 株式会社は、社会において重要な役割を果たす NPO/NGO が持続発展的に社会変革に取り組めるよう、SDGs の大きな目標である「貧困の解消」に向けて取り組む NPO/NGO を対象に、組織課題を明らかにする組織診断や、具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化の取り組み」に助成をしています。企業や助成団体の大半が事業助成の中で、非営利団体の多くが人材と資金など組織基盤に課題を抱えている状況において、貴重な助成事業となっています。

今回、当会は「中堅 NGO の持続性に向けた財政基盤強化・自己資金拡充のための組織診断」事業として応募し、厳しい審査と高い競争率を経て採択されました。助成事業により、外部専門家によって組織診断を受けて、課題や潜在可能性をより正確に把握し、それに基づいて課題解決の実践的な行動計画を立案するものです。この過程で当会役職員の自己資金拡充能力の向上を図り、次年度以降の実施を目指します。本助成事業の目標は次の三点です。

①財政基盤強化の視点から課題、可能性など組織診断を受け現況・課題を正確に把握する
②財政基盤強化行動計画の立案と人材育成を進める
③中堅 NGO として組織基盤強化を目指す道標を提示する

注：JANIC（国際協力 NGO センター）の「NGOデータブック2016」によると、NGO の年間収入が1億円以上の大手団体が 16.9%、1000 万円未満の小規模団体が 33%、1000 万円以上1億円未満の中堅団体が 50.0%と半分を占めています。国際協力 NGO の大半を中小規模団体が占める中で、中堅NGOは強みを活かした有効な現地活動を続けていますが、それを支える財政基盤が脆弱である共通の課題を抱えています。

加藤陽一
Ⅳ－JAPAN Panasonic 助成事業アドバイザー

N 連　ホスピタリティ・介護職業訓練

2期生の就業斡旋と3期生のハイブリッド・オンライン授業

8月 31 日に研修を修了した2期生22名ですが、コロナ禍で当初の目的であったホテル従業員の求人が壊滅状態の中、13名が就業、進学しました。内訳はレストランの厨房スタッフ2名、ウェイトレス・ウェイター2名、ハウスメイド3名、ビエンチャン市内の日本料理店のスタッフ１名、同じく韓国料理店のスタッフ1名、衛生兵士1名、自ら屋台を出したのが1名、売っているのは研修で習ったコロッケです。そして2名は難関ラオス国立大学の入学試験に合格しました。そのうちの1名は前42号の山の民奨学金事業の紹介で取り上げたスッチャイさんで英語学科に、もう1名は環境学科に入学が決まりました。2名とも貧しい家庭で進学を諦めていたのですが、本研修に来たことで互いに刺激となり見事な結果となりました。

インターン先のホテル内レストランで
先輩から接客の指導

オンライン画面越しに見る研修の様子（ベッドメイキング）

これからは奨学金取得手続きなどをフォローします。残りの9名は無職というわけではなく家業の手伝い5名(小売店3、ミカン農家1、酒販売店1)、面接の返事待ち中(不発弾処理のプロジェクトや縫製工場など)4名となっております。レストランやハウスメイドの就業先は冨永代表の人脈をフルに活用させていただきました。

第3期は9月13日からスタートし、現在21名が研修中です。しかし開始直後にビエンチャン市内で大規模クラスター感染が発生し9月20日から全学校閉鎖令が出され、全面オンライン授業に切り替えました。11月中旬に全寮制の学校の再開が認められたので安全を確認の上、11月22日からは半分はセンターで研修、半分はオンラインでその様子を視聴する、というハイブリッド・オンライン授業を行っております。 第3期生の修了予定は来年の3月14日。それまでにラオスに限らず世界的に新型コロナウィルスの終息が見えて観光業が復活し、ラオスのホテル業界の求人が活発に行われているといいのですが。

プロジェクト・マネージャー　圓谷

はじめまして

このたび日本事務局に着任いたしました、前方(まえかた)と申します。前職は看護師ですが、開発途上国の健康向上に貢献したいという想いで、青年海外協力隊の参加や他 NGO に努めた経験があります。何かと至らぬ点もあるかと存じますが、早く IV-JAPAN のお役に立てるように努める所存です。これからどうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介:
埼玉県(旧)大宮市生まれ　群馬県高崎市育ち。
青年海外協力隊経験者の夫と長男(3歳)と3人暮らし、さいたま市西区在住
趣味・特技:DIY　家庭菜園

JICA　草の根技術支援事業　木工事業

●　木工技術書が完成

木工編集会議の様子

木工プロジェクトでは、木工技術書を作成しました！！
前回のフェーズで制作した木工技術書を、今回、カウンターパートのラオス職業教育機関の先生方と編集、校閲作業を行い、印刷まで終えました。

編集会議では、1 ページから順番に全員に本文を読み上げていき、内容がラオスの木工教育に適切なものか、内容に過不足がないかと確認していきました。

また、民間企業の方の意見も取り入れたいということで、ラオスの家具組合事務局長も参加し、実際の家具工場で必要な技術や知識も加えることもできました。この木工技術書はラオスの木工教育の質の向上に資するものであると考えています。本来は教科書として配布することができれば一番だったのですが、教科書という形にすると教育省の許可等が必要になり手続きに何年もかかるということなので、プロジェクトの成果品として作成しました。（この辺りが、ラオスでプロジェクトを行うにあたって、もどかしい部分です。）

また、文面だけでは分かりにくい部分については、実際に実演している動画を製作しました。ノミの研ぎ方、定規の使い方などの動画を製作して、木工のホームページ（ラオス語）から見ることができるようになっています。 これから、ラオス全国の職業教育校にこの木工技術書を配布していきます。また、木工ホームページ（ラオス語）からはこの技術書がダウンロードできるようになっています。

プロジェクト・マネージャー　田澤

木工ホームページ（ラオス語）　：https://iv-japan.org/woodworking/textbook/

ホームページを拝見して　　望月　明光

20 代のころ中央青少年団体協議会で私はユースホステル協会を代表して、冨永さんはガールスカウトを代表して青少年指導者の育成セミナーに参加しました。それが冨永さんとの初めての出会いです。JICA 専門家として世界各地に赴任しましたが、すでに後期高齢者の仲間入りをしています。先日、NHK の”ラジオ深夜便”を聞いていましたら、”ラオス便り”に冨永幸子さんのお声が流れてまいりました。双方が互いに 50 数年間の国際協力の道を歩んで来ましたが、此の度ご縁があって二人を結び着ける機会があり、アジア諸国の恵まれない人々を助けるチャンスが再び生まれたのです。早速、” IV-JAPAN”のホームページを隅から隅まで特に、ニューズレターは No1～42 までを拝読いたしました。冨永さんの長い人生における体験であり、長い歴史の記録であると捉えました。それは誰にも作り上げることの出来ない困難と苦難、栄光の歴史でもあり、それを物語る、今日の立派なお姿です。長期にわたる活動に対してのご苦労に感謝する報いの印として、外務大臣表彰や JICA 理事長賞を受賞される等、輝かしい贈りものです。この様な素晴らしい活動を多くの友達にも見せたいと思い約 100 人に IV-JAPAN”のホームページ特に代表挨拶のコーナーをお読みくださいと申し上げました。大勢の友達から ”始めて見た” ”素晴らしい活動だ”と多くの声が寄せられました。今後も裏方とし、一人の仲間として ”国際協力 NGO・IV-JAPAN”の発展と拡大、その成長を見守り、一人でも多くのドナーの獲得に協力する所存です。

幸子のラオスだより　～ラオスに生かされて～

日本とラオスの長年の友好親善及び国際協力に尽力した功績で冨永代表が令和 3 年度外務大臣表彰が授与されました。彼女の生き方と IV-JAPAN について語ってもらいました。

小学校 5 年生の時、世界百科事典でインドのサリーに魅せられ、中学 1 年生の時にインドのペンフレンドができました。65 年たった今でも姉妹のように行き来してます。中 3 の時にもっと国際的な活動がしたくて、ガールスカウトに入団しました。ガールスカウト教育は「Learning by doing」実践教育が基本でした。これは現在の職業訓練に活かし、実力重視の訓練を実施しています。

ガールスカウトの高校生仲間と

【新しい国際教育としての開発教育】　ガールスカウトの活動の中で「開発教育」に出会います。1980 年～81 年にタイに在住し、ガールスカウト連盟でタイ料理も習い、インドシナ難民キャンプにももぐりこみ、東北タイや北タイで農村開発も経験させていただきました。帰国時にカノック・ガールスカウト会長より依頼され、カノック奨学金事業を立ち上げました。このような経験が IV-JAPAN の活動の基本になっています。

【大宮のラオス難民との出会い】　ラオスとの関りは、1980 年代当時、埼玉県大宮市にはラオス難民が 300 人も住んでいました。難民のラオス人から「タイばかり支援しないでラオスにも行ってください。」と言われて、1994 年に初めてラオスを訪れました。1975 年の革命当時から何も変わっていなくて、ひどい有様でした。シェンクアーン県に参りました。ベトナム国境に近いノンヘット郡まで 1 泊 2 日で行くのですが、山岳民族の主な収入源の紫や白のけしの花が道端にたくさん咲いています。道中宿屋はなく、食料持参の旅でした。トイレもないので野原で用を足すか、農家のトイレをお借りするのですが、用を足したらシャベルで土をかぶせる式のトイレにもガールスカウトキャンプの経験で驚きませんでした。

教育支援　山の子

教育支援　都会の子

【シェンクアーンで職業訓練開始】　女性や青年の自立には職業訓練で技術を身に着け、経済的自立が大事と、最初の事業はシェンクアーンの山岳民族の女性の職業訓練（縫製・織物）と学校制度外教育から始めました。1 期 6 か月間に 50 人を受け入れて、全員寮生活です。5 年間の小学校卒業には 360 時間、3 年間の中学校卒業も確か 240 時間で終了できました。辺境のノンヘット郡で 10 年間実施し、1000 人の卒業生を輩出しました。1998 年ごろ各国大使がシェンクアーンへ視察に見えたとき、「こんな辺境の地にも日本の援助が届いていて鼻が高かったよ」と日本大使はおっしゃっていました。起業や就職は難しかったです。訓練生は山岳民族の娘で、山の中の村に帰っても店はなく、親戚ばかりです。商売になりませんが、村でたった 1 軒の洋裁屋ができ村人が喜んでいました。

起業した縫製訓練生

【ビエンチャン都で職業訓練開始】　1999 年に訓練所をビエンチャン都教育局敷地内に建設し、木工家具職業訓練と建設職業訓練コースを実施しました。翌年には同所に縫製、調理、理美容訓練所を設立して、62 人収容できる寮も建て、全国から訓練生が来るようになりました。**IV-JAPAN の職業訓練の特徴は**いつまでも日本の援助は続きませんので、ハンドオーバー後の持続性を考え、トレーナーやマネージャーは公務員を養成、授業料から給料を払わないで済みます。授業料を課して運営費にします。貧しい訓練生には授業料相当の**「カノック奨学金」**を支給します。実践重視の訓練です。初・中級コース 6 カ月間で基礎、上級コース 6 カ月間にラオスで初めて On the Job Training (OJT)を設け、外部からのお客さま相手に技術と経営の経験を積み実力を付けます。収益は訓練生で分けます。OJT は教育省からとても良い見本と評価されました。更に恵まれない地方の女性・青少年に自立の機会をもっと広げるため、**「チャンパー山の民奨学金」**を 2018 年に創設しました。日本のドナーは 1 人の訓練生に 6 万円を負担して、訓練生に 6 カ月間の生活費と交通費を支給していただきます。**マイクロ・ファイナンス・ローン「夢屋基金」**の貸付も始めました。上級コース修了者に起業のためのローンを設定し、上限は縫製、調理、理美容は約 5 万円、木工家具修了者は約 10 万円を 2 年で返済します。就職先の紹介にも力を入れています。経済的に自立できて初めて職業訓練を受けた意味があります。

フルーツカービング実習

木工家具職業訓練

縫製や理美容は自宅で小さい起業ができますが、ホスピタリティ/介護、調理、家具は就職先を紹介し、卒業生の起業・就業率 65%目指します。つくづく 6 カ月や 1 年の訓練だけで起業する訓練生が「偉い」と思いました。

2018 年に南部アタプー県のダム決壊で洪水が起こり緊急支援に行ったのですが、1 年後に再度継続支援に赴いた帰りの山中で交通事故にあいました。交通事故から 1 年ぶりで復帰したときはたくさんの卒業生が私の身を案じて、50 人も集まって**「バーシースックワン」**＝病気やことあるごとに『良い気を呼び込む』ための儀式＝を開いてくれました。ビエンチャンやナーサイトン職業訓練所を合わせると 2500 人くらいの卒業生がいます。4 月以来ロックダウンで自由に買い物ができないのですが、卒業生から食べものはあるのかとか、フェースブックや電話で心配してくれる仲間が現地にいるのはとても幸せなことです。
日本でも応援してくださる沢山の友人、ドナー、職員、家族がいなければ事業は可能ではありませんでした。　皆様に感謝感謝です。

災害緊急支援：アタプー県

バーシーに集まった卒業生

● お知らせ ●

ＮＨＫラジオマイあさ放送：2022 年１月７日（金）午前８時６分～　ラオス便りです。
聴き逃しサービスで放送後１週間聴くことができます。
https://www.nhk.or.jp/radio/ondemand/

IV-JAPAN のホームページ上で、「国際協力費・運営費」のみクレジットカードによる寄付ができるようになりました。
詳しくは弊会ホームページをご覧下さい。
https://iv-japan.org/participation_and_donation/donation/

【　寄付者一覧　】(2021 年 8 月 1 日～2021 年 11 月 30 日）※敬称略

【 チャンパー山の民奨学金　寄付者一覧 】

山口正志（60,000 円）

【 カノック奨学金　寄付者一覧　1 口 12,000 円】

斎藤加代（３口）、岡庭史子（２口）、小松文子（１口）、松下倶子（１口）、高見沢啓二（２口）又吉ミチ（１口）、岩月優子（１口）

【 国際協力費・運営費　寄付者一覧　※2,000 円未満は省略させて頂きます。】

利根川恵子（5,000 円）、近藤利雄（10,000 円）、田中誠吾（3,000 円）、織田佐由子（12,000 円）、小松文子（3,000 円）、松下倶子（3,000 円）、塩屋雄一（20,000 円）、河島一郎（3,000 円）、福田三佳（3,000 円）、上田義明（3,000 円）、室井優香（3,000 円）、伊藤洋子（3,000 円）（有）イチカワ北海食品（10,000 円）、岩月優子（3,000 円）、原香織（3,000 円）

【 ドナー募集 】

○カノック奨学金、国際協力費・運営費、チャンパー山の民奨学金、各ドナーを随時募集しています。

①カノック奨学金ドナー　　12,000 円（1 口）以上
②国際協力費・運営費ドナー　個人:3,000 円以上／団体・法人:10,000 円以上
③チャンパー山の民奨学金　　60,000 円（1 口）以上

○申込方法　※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。
郵便振替　：（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　普通預金　口座番号:5038052
名義人：（特非）国際協力 NGO・IV－JAPAN

認定・埼玉県指定　特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN
当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2-101
TEL/FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
https://iv-japan.org/

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientiane, Lao PDR
TEL/FAX : +856-21-316047
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

アカウンタービリティ
セルフチェックマーク